

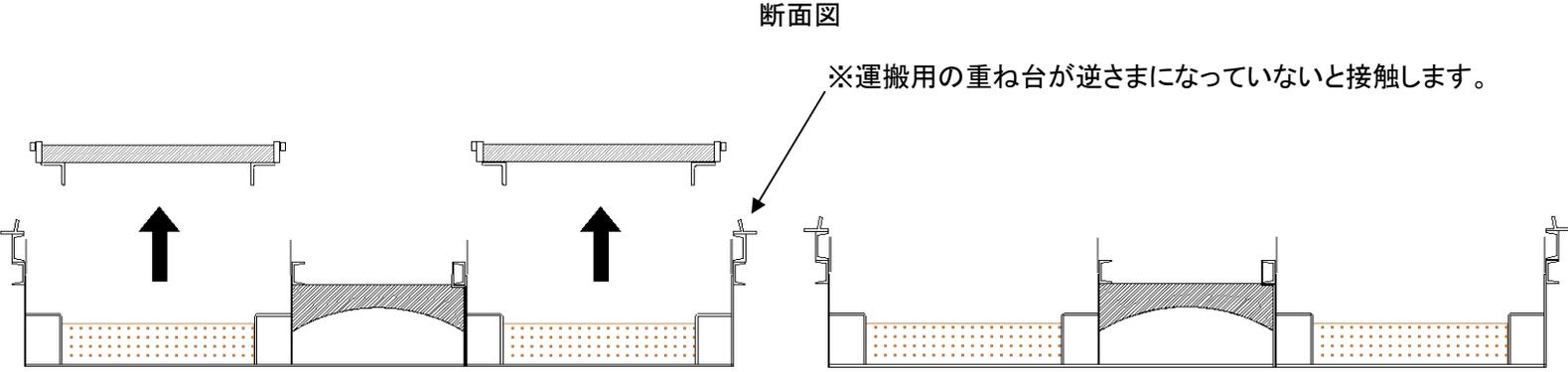
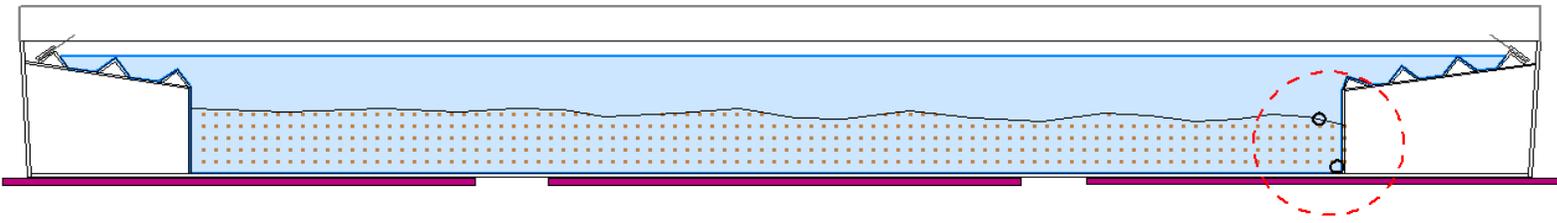
清掃作業手順書 1

作業手順書

単位作業	タイヤ洗浄機設清掃		
作業条件	重機・クレーンによる吊作業時の落下防止処置		
使用機械・工具	トラッククレーン(5t未満)・バックホウ0.13m ³ ~0.2m ³ ・ワイヤーロープ・水中ポンプ(2インチ)・ダンプトラック2t 保安帽、安全靴		
施工手順	施工方法	施工要点	必要資格
洗浄機清掃準備 ①	<ul style="list-style-type: none"> ・洗浄機内の水を水中ポンプまたは、ドレンキャップ外して排出する。 (備考) PAC等の凝集剤を添加しておりますと、翌日には不純物が沈下し、上水が透明になります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この時点では全ての水を排出する必要は無く、内部の部材が露出すればOK! ・洗浄機中央のスペースに水を移動して再利用する事も可能です。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・内部走行部の部材(片方ずつ)の中央付近にある4箇所のフックにワイヤー等を掛けて吊り出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クレーン(5t未満)又はバックホウ(移動式クレーン仕様)等が必要 ※部材重量約570kg 	
側面図			
水面から少し浮かした状態で、羽根のに堆積している微細土を水槽内に水で洗い流してから取り出す			

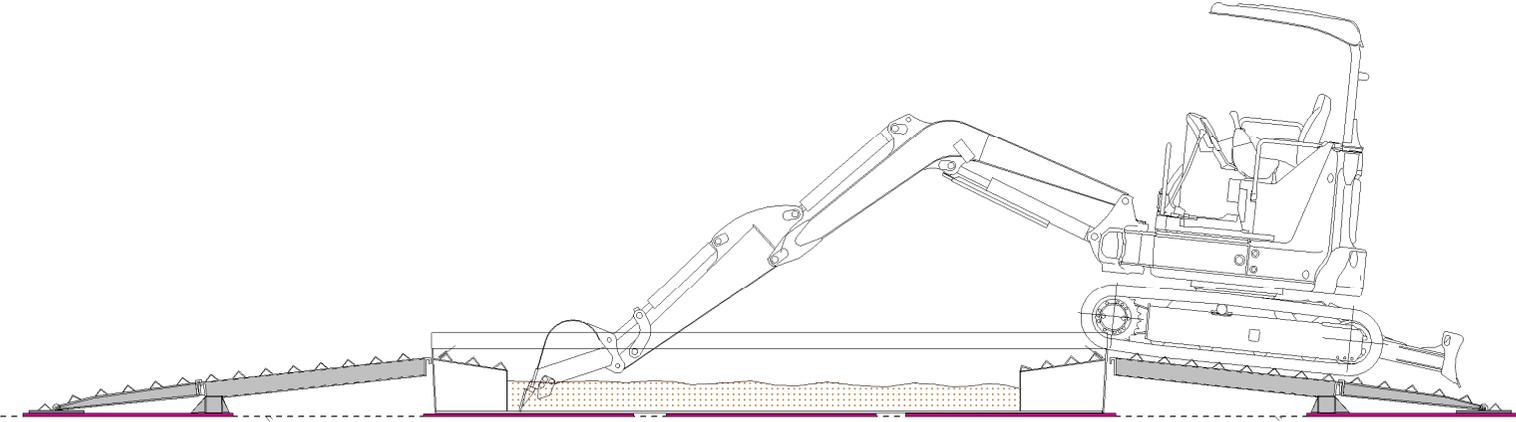
清掃作業手順書 2

作業手順書

単位作業	タイヤ洗浄機設清掃		
作業条件	重機・クレーンによる吊作業時の落下防止処置		
使用機械・工具	トラッククレーン(5t未満)・バックホウ0.13m ³ ~0.2m ³ ・ワイヤーロープ・水中ポンプ・ダンプトラック2t 保安帽、安全靴		
施工手順	施 工 方 法	施 工 要 点	必要資格
洗浄機清掃準備	・同じ手順で両方の部材を吊り出す。	"	"
②	<p>断面図</p> 		
	・この時点でまだ残り水があれば取除く。	<ul style="list-style-type: none"> ・底部の進行方向終点側 側面のドレンキャップを外スコップ等で土砂を避けて上水を排出する。 ・埋設設置の場合は水中ポンプ等で排出する。 	
			

清掃作業手順書 3

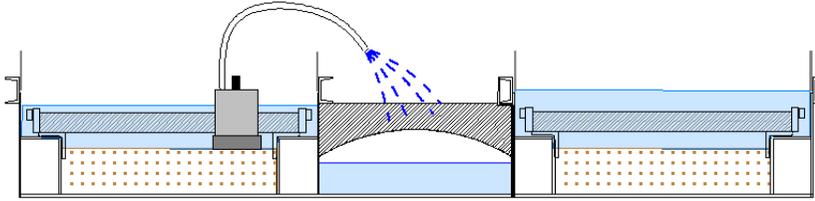
作業手順書

単位作業	タイヤ洗浄機設清掃		
作業条件	土砂取除き時の交通規制・接触災害への防止処置		
使用機械・工具	バックホウ0.13m ³ ～0.2m ³ ・ダンプトラック2t 保安帽、安全靴		
施工手順	施工方法	施工要点	必要資格
土砂取除き ③	<p>・平爪バックホウ、又は人力にて土砂を排出する。</p> <p>※本体を傷つける怖れがある為バックホウは必ずゴムクローラーの物を使用し、平爪を装着して作業してください。</p>	<p>・バケット幅約700mmまでのバックホウでの使用が可能です。</p> <p>・完全に取除くには最後は角スコップ等で人力にて取除く必要があります。</p> <p>※昇降台を取り外した方が作業性は向上します。</p>	車両系建設機械
			

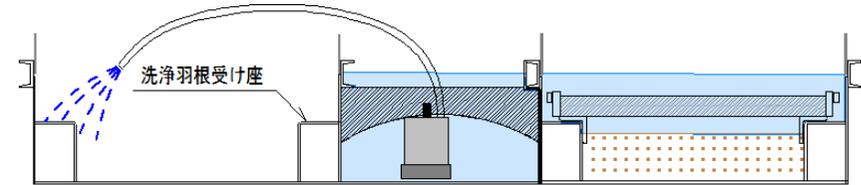
清掃作業手順書 4

作業手順書 (2)

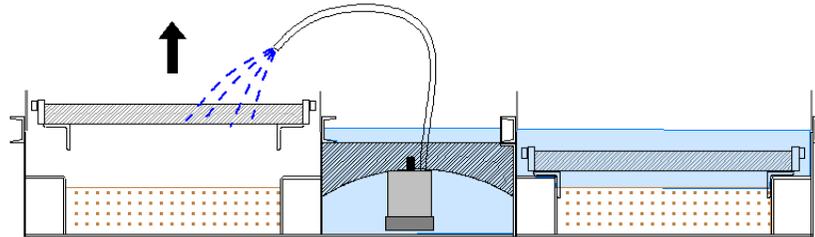
- ① まず片方の上澄み水を小型の水中ポンプを用いて中央の水槽へ移動。
(※水中ポンプが泥土を吸い込まないように注意して下さい。)



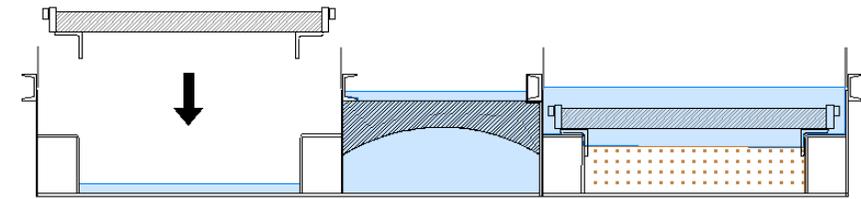
- ④ ポンプ等で 洗浄羽根 受け座 部分の土砂を洗い流す。
(※ 毎回槽内の土砂を全て取り除く必要は有りませんが、受け座 部分に関しては、土砂の付着が無い様にして下さい。)



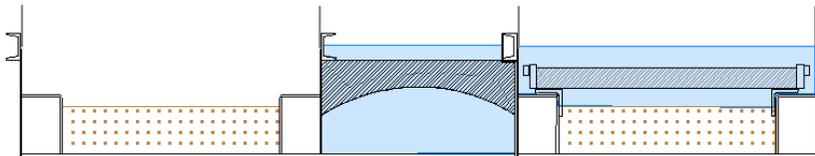
- ② 洗浄羽根を少し持ち上げ、ポンプを用いて泥土を洗い流す。
(※ 中間清掃の場合等で、あまり汚れが酷く無ければ 再度取り付ける時に下部沈殿槽に洗い流しても良いです。)



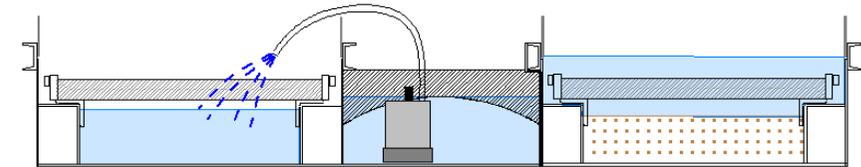
- ⑤ 洗浄羽根を所定の位置に取り付ける。
(※ 取り付ける際に方向に注意して下さい。)



- ③ 洗浄槽に残った水を上部ドレン又は、ポンプにて排出し、人力又は、0.1m³~0.25m³ の程度平爪バックホウを用いて土砂を取り出す。



- ⑥ 洗浄水を中央の水槽から戻す。



※ 上記一連の作業を左右の洗浄水槽で 順次一回づつ行う事により、洗浄水の節約になり 外部に排出する濁水の量を減らす事が出来ます。